

絵画が失語症患者に果たす役割

○三田村啓子（京都医健専門学校 言語聴覚科）

キーワード：失語症、絵画、表現、意欲、生活

はじめに

失語症は脳の言語野及びその周辺の損傷により「聞く、話す、読む、書く」の4つの言語様式にわたり後天的な障害をうける言語機能の障害である。大橋(2016)は「失語症とは言語の象徴と了解の障害で、しかも大脳の一定領域の器質的病変によるもの」と規定している。一旦獲得した言語機能を人生の途中で多くは突然障害を受ける。失語症は言語理解と表出の重症度はさまざまだが、コミュニケーションの障害となるのは必須である。家庭生活も社会生活も閉ざされる場合もある。横張(2016)は失語症患者にたいする描画と書画などの創作活動の有効性を次のように述べている。

- ① 言語障害の重症度に関係なく（重度障害の方でも）取り組める
- ② 重度障害の方でも健常者以上の作品を創り得る→失われた自信や自尊心の復活、人間としての復権
また書字や口頭言語での表出を制限された状況を伝えるための手段としても絵画は有効である。

失語症者にとって絵画の導入はさまざまな役割がある。

目的

失語症のセラピーに絵画を導入した。今後の失語症セラピーの方法のひとつとして積極的に取り組まれることを目的に絵画が異なった役割を果たしたと考えられる3例について検討した。失語症のセラピーに早期あるいは慢性期に絵画を取り入れることが、治療効果にもつながり、生きる意欲やコミュニケーションに役立つと思われた。

方法

セラピーに絵画を取り入れた失語症患者3例が対象である。急性期1名、慢性期2名で失語症の症状や改善経過、絵画の変化などを検討し、絵画が果たした役割について検討した。なお、倫理的配慮として対象者へのインフォームド・コンセントを徹底するとともに、匿名化の処理も行った。

結果

3例の失語症患者。

急性期の患者A 男性。60代。クモ膜下出血にて発症。発症後3ヵ月 言語聴覚療法初診となった。重度ブローカ失語。右上下肢不全マヒ軽度。発症後5ヵ月退院。中等度にまで失語症は改善。外来にてセラピー継続。しかし、意欲低下のため、セラピーも休みがちになった。家庭でも全く話さず食欲もない。家族が心配し相談を受ける。元々の職業が日本画家。暑中見舞いの絵ハガキを宿題に出す。聞き手の上下肢にマヒがあるが、発症前に描いた絵を模写して持参する。絵について質問すると「えー うー これ」と手まねで持参した模写した絵を指しながら説明しようとする。次に描く絵をセラピストが考えていると手で丸い形を作り自分で描きたい絵を伝えようとする。ことばで伝えようと意欲的な発語があった。

発症10ヵ月、セラピーは絵画のみに切り変えた。利き手の右手指には第2関節の屈曲障害が後遺症で残ったが、絵画もことばも順調に改善した。3年目には職業復帰した。

慢性期の患者B 男性 70代 脳梗塞。発症後1年言語聴覚療法初診となった。右上肢完全マヒ。下肢不完全マヒ。重度ブローカ失語。自発語は4語のみであった。通常のセラピーのなかで写経を1年6ヵ月後から取り入れた。利き手の右手は完全マヒのため左手で写経した。自宅ではごく近くの散歩以外はテレビを見て日常生活を過ごしていた。1週間に一度のセラピーまでに写経を1枚仕上げることが日課に加わり、自分で足りなくなった墨汁を装具をつけて買い物に行くようになった。発症後4年絵を描き始めた。クレパスで人形やお菓子の缶やお酒など身近なものが画材であった。定着していた写経には妻は手伝うことはなかった。絵画には自宅の中を歩き回り何も持たず絵も描き始めないと妻は押入れから画材になりそうなものを提供した。妻にとっても楽しみとなった。

慢性期患者C 男性 40代 右上肢完全マヒ。下肢不完全マヒ。重度ブローカ失語。発症から3年他機関からの紹介でセラピーを開始した。コミュニケーションは身振りと「コーコー」などの発語で伝えようとするが、家族や言語聴覚士にも伝わらず時に声を荒げることもあった。自発的な書字は不可、写字は可能であった。気に入った新聞記事を選んで写してくるセラピーを取り入れた。スポーツや歴史の話題が多くそれまで知らなかった興味がわかった。単純な絵の模写練習を取り入れ、塗り絵も行った。発症後4年模写から簡単な自発的な絵を描き始めた。周囲が絵を理解できない場合には積極的に説明した。

考察

絵画を取り入れた失語症患者3例を示した。

Aは急性期からの治療効果に絵画が大きな役割を果たした。抑うつ傾向からの回復にも役立ち、書きたい絵と次に描きたい絵を説明しようと積極的に取り組み、失語症はほぼ軽快した。

Bは失語症と聞き手側の身体マヒのため自宅に閉じこもりテレビを見るのが生活の中心であった。写経の用具の買い出しのため徐々に外へも出かけた。絵画は家でも座って時間を過ごしていたが画材を探すため家の中もよく動くようになった。生活の広がりが絵画によってもたらされた。

Cは模写や写字から自発的な絵画に改善した。意図が通じないと怒りを爆発させることもあったが減少した。コミュニケーションに役立つ絵画となった。当日は絵画を提示する。

利益相反開示；発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(MITAMURA Keiko)